in.you
in celebration of sexy debutantes
6
June
1996
800Yen
1996年6月1日発行(毎月1回1日発行) 第3巻第6号
Skin trade in Hungary
You are
UPPERMOST
in my heart.
Bo Saint
Jenny Porter
Joanne Guest
Shayla LaVeaux

●TABLE OF CONTENTS（＊印は初登場）

⑩ **Shayla LaVeaux** (USA) by J. Stephen Hicks
⑯ **Kristina Kovacs** (Hungary) by Chantel／VLT
㉒＊**Sally** (Hungary) by Viv Thomas
㉚＊**Shelli** (Australia) by Darren McCormack
㊱＊**Pamela** (UK) by John Stuart
㊷ **Jenny Porter** (UK) by Ralph Medland
㊽ **Susan O'Mally** (UK) by Jack Harrison
㊾ **Bo Saint** (USA) by J. Stephen Hicks
㊿＊**Dagmar Bockova** (CZECK) by Peter Flodqvist
(51) **Joanne Guest** (UK) by Steve Colby
(52)＊**Selena** (USA) by J. Stephen Hicks
(53) **Nikki Tyler** (USA) by Suze Randall
(54)＊**Kristina Boros** (Hungary) **&** ＊**Yasmine Gilon** (Belgium) by Jack Harrison

●VOTE!

今月のジョアンヌ・ゲストは昨年11月の撮影。さすがに掲載する方も飽きがこないわけではないが、やはり依然リクエストは多いし、またきわだった存在感もあるから致し方ない。一方の花形カーステンはもう少し様子見。この二人につぐ英国の人気モデルはといえば、うーん誰だろう。さしずめジェニー・ポーターあたりを推したいところだが、前回ヤスミン・リーの名で登場したスーザン・オマリーも有力候補になるかも。アメリカ勢ではシェイラ・ラヴォー、ボー・セイントの常連組。オーストラリアからも新人登場の今月。4月号の投票結果は①アイリーン・スミス②カーステン・イムリー(−6) ③ニッキー・タイラー(−13)④ニッキー・ダイアル(−1) ⑤エヴィー・ローレンス&ローレン(−2) ⑦パッツィ(−3) 以下略。5月号の推移はテイラー・セント・クレア、デビー・タービン、ジェナ・ジェームソンの順で競り合っている。割と地見目なモデルのテイラーだが、メイクと衣裳でぐっとセクシー度を増したのがアピールしたのか。さて今月はぜひとも初登場モデルが1位になってほしいもの。

美少女シェイラ再び輝く。

ご存知ラッキーズ・ガールのひとり。被膜アオージャー、ラッキー・スミス率いるアメリカAV界の売れっ子スター、ケイラン、チオシー、ジェリー、カイリーそしてシェイラ。2月号でレポートした問題のSM作品「ヘッド・トリップ」がリリースされたばかりだが、続いて、「アダルト・ビデオ・ニューズ（AVN）初製作の「スメル・ライク・セックス」（VCA）もいよいよ発売。再びスポットライトが。

THE OPENING PICTORIAL

Shayla LaVeaux

●シェイラ・ラヴォー／アメリカ

Photos by J. Stephen Hicks

＊Model／Kristina Kovacs　＊Photo／VLT Promotions ©

welcome to UP!U

VOL.3 NO.6 *June 1996*

ほぼ毎月のようにハンガリーやチェコといった旧東欧社会主義国出身のモデルを紹介していますが、この地域から以前にもましてモデルが輩出しています。今月は英国のカメラマン、ビブ・トーマスがハンガリーの首都ブダペストにロケに出かけた際の報告記を送ってくれました。外貨ほしさのモデル志願は後をたたないようでそのうちヨーロッパのヌードモデルやポルノ女優はみんな東欧出身なんてことに…？ というわけで今月はいつもより東欧モデルが多くなりました。もちろん人気上位の定番モデルも充実しています。

●Cover model／Danielle Wheeler　●Photo by Harry Ormesher
●Pin-up model／Joanne Guest　●Photos by Steve Colby

Kristina Kovacs

●クリスティナ・コヴァクス／ハンガリー

Photos by Chantel (VLT Promotions)

女の眼で迫る クリちゃんの魅力。

ビブ・トーマスの娘シャンテルの撮り下ろし。
同年代のしかも同性にヌードを撮ってもらうのはどんな気分？
ハンガリーの美少女モデル、クリスティナはこれで通算5回目。
絡みは見たくなかったという人もいてその気持ちも
よくわかるけど、やっぱり彼女が出たというハードコアを
いちど見てみたいというのも心理だよなぁ。

Sally

●サリー／ハンガリー
Photos by Viv Thomas

NEW COMER

パリで磨いたセンス。エージェントも兼業。

モデル名サリー。本名ジッタ・バンコ。年齢不詳。数年前からパリでナイトクラブのダンサーとして活動。4年前にフランス人のカメラマンに見出されファッションモデルとしてデビュー。カレン・マルダーやステファニー・キャンベルとも一緒に仕事をしたことも。従ってボルノには出たこともなければ今後も予定なし。最近ハンガリーに戻りブダペストでモデル・エージェンシーを始める。現在はフランスのカンヌとブダペストを往復する毎日。なんてもボーイフレンドはリッチマンだとかで、ボルノで稼ぐ必要などないのだそうだ。今回のビブ・トーマスのハンガリー・ロケで集まったモデルの中でも確かに彼女はひときわハイセンスだ。

HOT REPORT

Budapest : the Hot Spot for finding beautiful European Girls

Skin trade in Hungary

欧州モデル界の新首都報告

東欧の旧社会主義国の中で経済の優等生と目されているハンガリー。
そこでは今ポルノ産業が活気づいているようだ。
ここ数年本誌でも東欧出身モデルをとりあげる機会が多くなってきているのがその証拠。表現の自由はもちろんのこと、性の解放も勢いよく進んでいる東欧では一体何が起こっているのだろうか？
そこでそのあたりに精通した2人の業界人のレポートを載せることに。
簡単なものではあるが、これで東欧(特にハンガリー)の様子が少しでもわかってもらえると思う。

Photos & Report by Viv Thomas

ハンガリーの首都ブダペストを流れるダニューブ川ぞいにて。

Skin trade in Hungary

HOT REPORT

最初に語ってくれるのは本誌とのつながりの深いカメラマン、ビブ・トーマス。数年前に例のカーステン・イムリーの特写を手掛けた彼だが、つい最近ハンガリーの首都ブダペストへ撮影ツアーをした模様。ここではそれにまつわる苦労話をしてくれる。もう1つはハンガリーのモデル・コーディネーターのレポートだ。彼はハンガリーのモデルを多くかかえており、先のビブ・トーマスもお世話になったほどの大物。彼がどうやってこのビジネスを始め現在の地位を築き上げたのか、興味深い証言が得られた。

証言①本誌でおなじみのカメラマン、ビブ・トーマス。
スター気取りの娘もいたけどね

ハンガリーでは撮影用の機材を借りることができないので、我々は自分たちの機材をすべて持っていくことにした。そのためヒースロー空港では、たっぷりと追加料金を取られてしまった。

ブダペストのコーディネーターはラツィロという男で、今回の撮影のために数人の新人モデルも紹介してくれた。まず田舎風の小さなホテルにチェックイン。寝室が7つもあり撮影にはなかなか適したところ。ダイニング、ラウンジ・バー、ビリヤード台やワインの貯蔵庫と色んなものが揃っている。

しかしホテル代が高くついたのは事実。1日1300マルク（日本円で約9万5千円）というお値段。加えて電気代を特別にとられた。そこは建物の構造が古いため電気系統が弱く、ロケ中に配線が焼けてしまうこともあったので、外から一本の極太ケーブルを引き込みホテルの周りの電気をすべてカバーした。

実は問題はここから。それはあるモデルのことだった。すべてのモデルとその土曜日に合流したのだが、ある数名は前日まで仕事をやっていたのを理由にギャラのアップを要求。この娘たちは自分たちのことをポルノスターのように思っているらしかった。実際はクソみたいなモデルなのに（笑）。問題児は以下のとおり。シルビア・カルマン、ジョンジー・マリッツア、アンドレア・ハジッタ、アニタ・ペルガー。本気でビッグスターを気取っていた。

一方、僕が初めて撮る娘たちは良かった。撮影中も本当にエンジョイしていた。結局全員そのホテルに泊まり、夜は飲んだりして楽しい時間を過ごした。

ところで我々はロケ用の衣装や靴をつめ込むスーツケースを用意していた。なぜならハンガリーのモデルたちは下着や服など何一つ持ってこないのだから。

あと最悪だったのは天候のこと。我々がハンガリーに着いたときは、ここ20年見られないほどの寒波の真っ最中で気温はマイナス10度、雪は1メートルも積もっていた。もう寒くて寒くて、太陽も全然顔を出さないありさま。

さらにはモデルとのコミュニケーションの問題。ほとんどのモデルたちが英語を話せないのだから、ポーズなどの指示を伝えるのが困難であった。とくに新人モデルたちは、どうしたらいいものかわからなかった様子。そんなこんなで同じロケ・セットを2回も撮ったこともしばしばあった。そこは我々としては我慢する必要がある。かわりに夜仕事が終わってから、お酒でそのいらだちを静めることになったけれど。

このハンガリー・ロケで、36枚撮りのフィルム300本を使った。撮影旅行全部の費用は、ざっと2万ポンド（約336万円）もかかったことになる。

美女2人を両手に満足に微笑むコックさん。

バーのカウンター越しにポーズを取るハンガリーモデルのひとりサリー。決まってます。

右はじはミック・ジャガーと一夜を供したというオルソリャ・デシー。中央のブロンドと左どなりは、それぞれ今月登場しているサリーとクリスティナ。

証言②モデル・コーディネーターのラツィロ。

毎日美女に囲まれているんだ！

私の名はラツィロ。現在34歳。共産主義者だった私は東欧諸国の裏で何が起こっているのか知りたくて、15歳のときにパリに向かうことを決意。しかしまだおさない私は18になるのを待った。ついにその日が来たとき「やるなら今だ！」と思い、まずカンヌへと向かった。

1983年のある日、その辺りで一番のディスコへ行った。初めて裸の女性が踊るのを見たというわけだ。そこでひらめいたのが、ハンガリーの娘たちを使ってこんなホットなショーをやってやろうということ。

その3年後に自分の会社を設立し、私のビジネスは順調に進んでいった。フランス、英国、オランダ、ベルギー、スイス、ドイツと。今はアメリカや日本にも触手を伸ばしたいと考えているところだ。

東欧のハンガリーにおいても、ポルノ産業がおもしろくなってきたようだ。有名な製作者たちがやって来てはフィルムを撮って帰る。これは必ずしもコストの問題ではなく、ここにはシリコンを入れたような娘が皆無だからである。みんな天然ボディでタイプも様々。黒髪や赤毛、ブロンド…。さらに彼女たちは親られることやセクシーになることに熱心なようだ。もちろんお金をかせぐことにも。ハンガリーはそんなに豊かな国ではないけれど、これらの仕事につけば若い女性にしては普通以上の生活が保証される。グラビアを1セット撮れば200～250ドル、ポルノに出演すれば1000～2000DEM（ハンガリーの通貨単位）もかせぐことができるのだから。

はっきり言って、私はこの仕事が本当に好きだ。何といっても常に美女に囲まれているのは最高だ。もしこれを読んでいる君もこのようなビジネスに興味があるのなら、今すぐ取りかかるべきだね！ハンガリーの女の子の気持ちは、とても変わりやすいので有名(?)だから…。彼女たちが信じているのはただひとつ、マネーだよ！

ビブの愛娘シャンテルもフォトグラファーの道へ。

ビブ・トーマスはメイキャップ・アーティストの妻エイプリルと二人三脚でイギリスを中心に活動していることは知られている。が、娘のシャンテルも父に続けとグラマー・フォトグラファーになった。今月掲載のクリスティナのヌードは彼女が撮影した。

Shelli

●シェリー／オーストラリア

Photos by Darren McCormack

ワイルドが身上、オージー・ガール。

英国のページ3ガール、デビー・ジャクソンかと一瞬思ってしまったほどよく似ている。でもまったく別人。右の脇腹と足首にあるタトゥーがその証拠。もとより彼女は英国人ではなくオーストラリア人。4月号のパッツィに続く本誌2人目のオージー娘。ビクトリア出身の20歳。本業(?)はバーのコンパニオン。趣味は水泳と読書とフィッシング。信条は人生を目一杯楽しむこと。将来は社会福祉の仕事に就きたいとは案外堅実。B91(Cカップ)W63H89cm、身長168cm。

NEW COMER

Pamela

●パメラ/イギリス
Photos by John Stuart

お嬢様モデル初脱ぎです。

昨年の夏にプロのモデルとして活動を始めたが、
ヌードになったのはこれが初めて(今年3月)。
今後はヌードで売り出していくのかというと、どうやら
英国内では掲載しないという条件らしくあまり期待できない。
19歳、ミッドランド在住。両親とともに住むその家は
とても古くまた広大なお城のような建物だとか。
バスト86(Cカップ)ウェスト56ヒップ84cm。
ボーイフレンドはミュージシャン。愛車はトヨタ・セリカ。
将来の夢は世界旅行。アジア、特に日本に行ってみたいと。
趣味は乗馬にディスコに水泳とよくあるパターン。
ナチュラルなのかブロンドヘアがとてもゴージャスだ。

NEW COMER

L

London Dream Date in

やっぱり写真だけじゃわからない モデルの素顔、話を聞いてみないとねっ！

モデル名ローレン、本名:ジェニー・ポーター。写真によっては別人のごとく見えた彼女、素っぴんを写真に撮られるのは苦手らしく、時に厚化粧で印象が異なったりする。この日は折りからどしゃぶり、列車の遅れやらカメラ・トラブルやらでアクシデント続きだったが、イヤな顔ひとつ見せず健気にも寒い外でポーズを取るジェニーの愛苦しい笑顔に彼女の素顔を見た思いがした。

with

Jenny Porter

Photos & interview by Ralph Medland
Make-up & styling by Claire Stevens

メイクしてもまだ少女っぽさが残るジェニー、素っぴんはもっと…。

ジェニーとのデートはなかなか波乱に満ちたものだった。まずは彼女の乗ったロンドン行きの列車が遅れて、さらには激しい雨が降りしきるなかカメラのシャッターが壊れる始末。

そんなトラブルを差し引いても彼女とのインタビューは、非常に楽しいものとなった。明るくてバブリー(陽気)なジェニーだが、ノーメイクでの写真撮影は好きではないということでNG。街では寒かったにもかかわらず常にはしゃぎまわっていた彼女、キングス・ロードやチェルシーでのウィンドー・ショッピングは生まれて初めての経験だった。

代わりのカメラをスタジオへ取りにもどった後も、雨はまったくやむ気配すらなかったけれど、彼女はイヤな顔ひとつせずに傘を片手にポーズを取ってくれた。

今回はある読者からの質問を新たに加えて変化をつけてみた。彼女も結構その質問に喜んで答えていたのでお楽しみに。

初恋は南アフリカにいた頃。

Dream Date in LONDON

L

——身長、体重そしてスリー・サイズをきかせて。

J　160㎝、50㎏。バスト86Bカップ、ウェスト53、ヒップ84㎝。

——ウェストは本当に53㎝かい?

J　51と55の間をとったの(笑)。

——OK。生まれはどこだい?

J　イングランドの北の方にあるウィガンよ。誕生日は1977年5月16日。

——血液型は知っているかい?

J　もちろん。赤よ。

——だよね(笑)。兄弟は多いって聞いているんだけど。

J　残念ながらね。兄のデビッドが20歳、弟のアンドリューが16歳、仲のいい妹のキャサリンが14歳。

——では子供時代はどうだったの?

J　遊ぶことに忙しかったわ。おそらくママからの遺伝だと思うけど。いつも、たくさん友達が周りにいたわ。それから南アフリカに6年ほど住んでいたこともあったの。

——へえー。初恋は南アフリカで?

J　そう。13か14のころだったかな。10歳も年上の人で、とても紳士だったし優しくて頭も良くて、おまけにキュートなオシリ!

——わかった、わかった!それから?

J　彼ったら、よく学校に送ってくれたけど、時々学校をサボって一緒に服を買いにいったりしたわ。

——彼は今どうしているんだい?

J　教会でゴスペルを教えているの。

——本当に!学校ではあねごだったって聞いているけど。

J　あねご?うーん、そうね(笑)。いつも友だちと連れだって遊びに行っては笑いこけて…。なぜかわからないけれど、友だちと仲が良かったから。でもしゃべりすぎて先生によくしかられたわ。

——おせっかいな先生だね。男の子のウけはもちろん良かったよね?

J　ボーイフレンドに不自由したことなかったもの(笑)。

——お勉強の方はどうかな?

J　性教育と生物学が好きだったかな。どちらも似たものでしょ。キライなのは数学!よくサボるのに窓から抜け出していたわ。

——そこまでするか!?ま、いいや。これはおもしろいニックネームだね。

J　「ニンフォ」のことね(ニンフォマニア——淫乱症)。学校の演劇の時間に、私の役がそんな感じだったから、と自分では思っているけど。

——うーん…。それじゃ趣味は何かな?

J　歌うことや踊ることならなんでも。

——好きなスポーツは?

J　するのはラグビー、見るのは体操。

——ラグビーだって?イイね!どうしてまた…(ラルフは昔ラグビーの選手)。

J　レスリングみたいで面白いし。でもボールはキャッチできないけど。

——最近観た映画は?

J　妹が「リアリィティ・バイツ」を奨めてくれたから観たわ。

——お気に入りの映画俳優はどう?

J　ジョニー・デップで決まり!

——ファッション関係は?

J　あんまり詳しくないけどアルマーニかな、好きなのは。

——車は何が好き?

J　フェラーリ。形はなめらか、スピード感はワンダフル!

——本や作家についてはどう?

J　デビッド・エディングスが最高ね。

——ロンドンはあまり詳しくないみたいだけど、好きな場所はあるかい?

J　そうね、ハイド・パークかな。池や緑があるし。

——オフはどんなふうに過ごしてる?

J　セックス、セックス！うそよ(笑)。お風呂にゆっくりつかったり、美容のために顔をパックしたり。

――それはセックスのあとに、息ぬきのためにするんだね。

J　そういうこと！

――夜は外に出たりしないの？

J　あまりね。それよりも家でアイス・クリームを食べながら、泣かせる映画や本を読むほうが好きだなあ。

――そうか。じゃ、外で君を口説くのはムリか…。

J　うーん…。でもロマンチックな夕食に誘ってくれたらイイかも。プラス偶然をよそおってタッチしてほしいな、テーブルの下とかで。

――おやおや…。次の質問は好きなお酒なんだけど、ジェニー、君は酔ってるね。

J　今はブランデーに酔ってるけど、本当は白ワインが好き。自分をエレガントにしてくれるから。

――食べ物はどうなんだい？

J　カレーがダメ。においがイヤなの。

――南アフリカ以外で行ったことのある国はどこかある？

J　オランダだけ。ロケでね。

――そのうちのベストはもちろん…。

J　南アフリカ！海岸がとってもキレイで、人が帰ったあとに寝ころんで夜を明かしたこともあるわ。

――さて日本には行ったことないよね？

J　まだね。大学を卒業したあと伝説について学びに行きたいと思ってるの。

――それって日本の？

J　イエス。日本の伝説って、カラフルでドラマティックなのよ。でも今はお金を貯めなくっちゃ。

――詳しいね。ということは日本には思い入れがあるんだ。

J　とても尊敬しているの。日本の男性

って、物静かで精神的に強くて上品だし服装もイカしてるわ。

――サムライのことかい?

J ええ。昔のサムライ映画をたくさん見たから。

――よーし、信じてあげよう(笑)。日本料理も詳しいのかな?

J 実はあんまり食べたことないのよ。だから何ともいえないんだけど、スシはダメそうね。生魚がちょっと…。

――他に日本について知りたいことは?

J 伝説以外では、日本の男性が私の想像どおりにサムライみたいな人ばかりかどうか、確かめてみたいわ。

――モデルを始めたのは最近だね。

J 去年の夏から。地元のプール・バーに彼氏といたら、ある人がエージェントに紹介してくれて。その人は、まず彼に許可を求めていたけど(笑)。

――モデルの仕事で良かった思い出は?

J これひとつと決められないけど、しいて挙げれば川のそばで船の中に家具とかが作られたセットで撮ったときかなあ。すごくキレイなところだったわ。

――悪いほうはどう?

J 最初のエージェントが最低…。いつも私をだまそうとしてたもの!

――カメラに向かうときは何を考える?

J いつもは変な顔にならないように気をつけているけど、時には家で彼といる気分でポーズするの。

――はいはい。写真の中の自分はどう?

J すごく奇妙ね。まるで別人みたい。

――モデル仲間はいるかい?

J パトリシアっていうストリッパーの友だちがいるぐらい。いろいろな人と知り合いになるけど、連絡しあったりするほどではないかなあ。

――男性に求めるものは何?

J 背が高くて、ミステリアスだけどもイキイキした人。

――初体験はいつ誰とどこで?

J 牧師の子と。彼の両親のベッドでしちゃった。面白かったわ。

――すごいねー。オーガズムはどう?

J 最初のは覚えてないけど、一番最後のは完璧よ。だって彼がいつもイカせてくれるんだから。

――では話もはずんだところで、本誌読者じきじきの質問へとまいろう!まず第1問は「好きなモットーは?」

J 『やったもん勝ち!』。

――すばらしいね。「怖いものは?」

J クモが大っ嫌い!

――「どんな時に幸せを感じる?」

J 読者の人には悪いけれど、夜に彼の腕に抱かれている時かしら。

――もちろん次の「今恋愛中ですか?」はイエスだね?

J 最近彼と婚約したの。

――それはおめでとう!

J サンキュー!どれだけ続くかわからないけど。

――じゃこれはどう？「日本男性と恋に落ちる可能性はありますか？」

J　今は彼のことしか考えられないけど、日本に行ったらありえるかも…。

――「ビートルズの歌で有名な『愛こそすべて』という言葉を信じる？」。

J　まあ信じないこともないけど、愛は請求書を払ってくれない。お金も必要。

――「ダイアナ妃とチャールズ皇太子の問題をどう思う？」

J　なかなか意表をつく質問ね（少し考えてから）。ダイアナ妃も悪いけど、王室自体もほめられたものじゃないし…。結局誰も彼女を責めることはできないんじゃないかしら。

――なるほど。まだまだ質問はあるよ。「君はヘヴィ・メタルが好きだと聞いているけど…」。

J　そうよ、アイアン・メイデンとか、ヴィクセンとか。あと女性バンドも好きね。

――最後にもう一つ音楽のことが。「今のイギリスの音楽シーンについてどう思うか？」

J　ちょっと寂しいわね。みんなビートやノイズばっかり追いかけて。もっと歌詞やメロディーを重視してほしいって感じだわ。

――なかなか新鮮な質問ばかりだったね。悪いけどまだ質問が残ってるよ。体の中で一番敏感なところはどこだい？

J　（セクシーな声で）く・び！

――タッチしたらどうなる？

J　もうゾクゾクしてイッちゃいそうよ。

――好きなカメラマンはだれかな？（期待するラルフ）

J　えーと…。そんなの決められない！

――このUP！Uの印象はどうだい？

J　高級感があって良いし楽しいわ。でももちょっとソソらないかなあ…。

――とりあえず楽しかっただろう？

J　ええ、もちろん（笑）。

――将来の夢とかあれば教えてよ？

J　世界中を旅して、その国の伝説や民俗学を学ぶこと。

――モデル以外で何か活動はしてる？

J　遊びだけじゃなく、ボランティアもしているわ。

――最後に日本の読者へひと言！

J　（日本語で）コンニチハ。これが私の知っている唯一の日本語よ。あっそうだサヨナラも知ってたわ。

――じゃあ一緒に。

（二人で）サヨナラ！

モデル・デビューしてまだ一年に満たないジェニー。何度もかわいらしい声で笑うのが印象的だったし、ラルフ自身も楽しそうだった。19歳とまだ若いが考え方も充分しっかりしているし、日本への知識・興味もあって（少しカン違いもあるものの）その点でちょいと見直した。ぜひ近いうちに来日して、あの愛くるしい笑い声をきかせてほしいものだ。

恒例・試着済みパンティをプレゼント！ 写真スタンドも。

この5月で19歳になるジェニー、その若さで既に婚約済みとは。せっかくファンになったばかりという人にはちと残念な事実が明されたけれど、まだ引退というわけじゃないようなので暖かい声援（笑）をひき続きヨロシクね！　それにしても意外だったのは、ジェニーの日本びいき（？）。「日本の伝説」に興味ありとのことだが、ハテそれってナニ？　外交辞令なのかもしれないが、まぁ日本への関心がまったくない子も過去にいたので救いといえば救い。さて今回は読者から寄せられた質問を本人にブツけてみたが、皆さんもどんなことでもいいから聞きたいことがあったら編集部まで、日本語でもOK！

※プレゼントのご応募は136ページをご覧下さい。

Jenny Porter

●ジェニー・ポーター／イギリス

Photos by Ralph Medland

もう間違えない、この顔と名前。

かねてより狙いを定めていたジェニーが案外スムースにデート企画に登場してくれた。やはり彼女も"地方モデル"だったみたいで、降りしきる雨の中わざわざロンドンまで電車に乗ってやって来た。その電車が遅れたとかで撮影は結構大変だったそうだが、ジェニーの明るい性格でなんとか事なきをえたとか。これが気難しいモデルだと…。それにしても彼女もカメラマンによって別人の如き印象を与えるモデルだ。いやメイクの違いというべきか、素っぴんで写真に撮られるのがイヤなんだと。

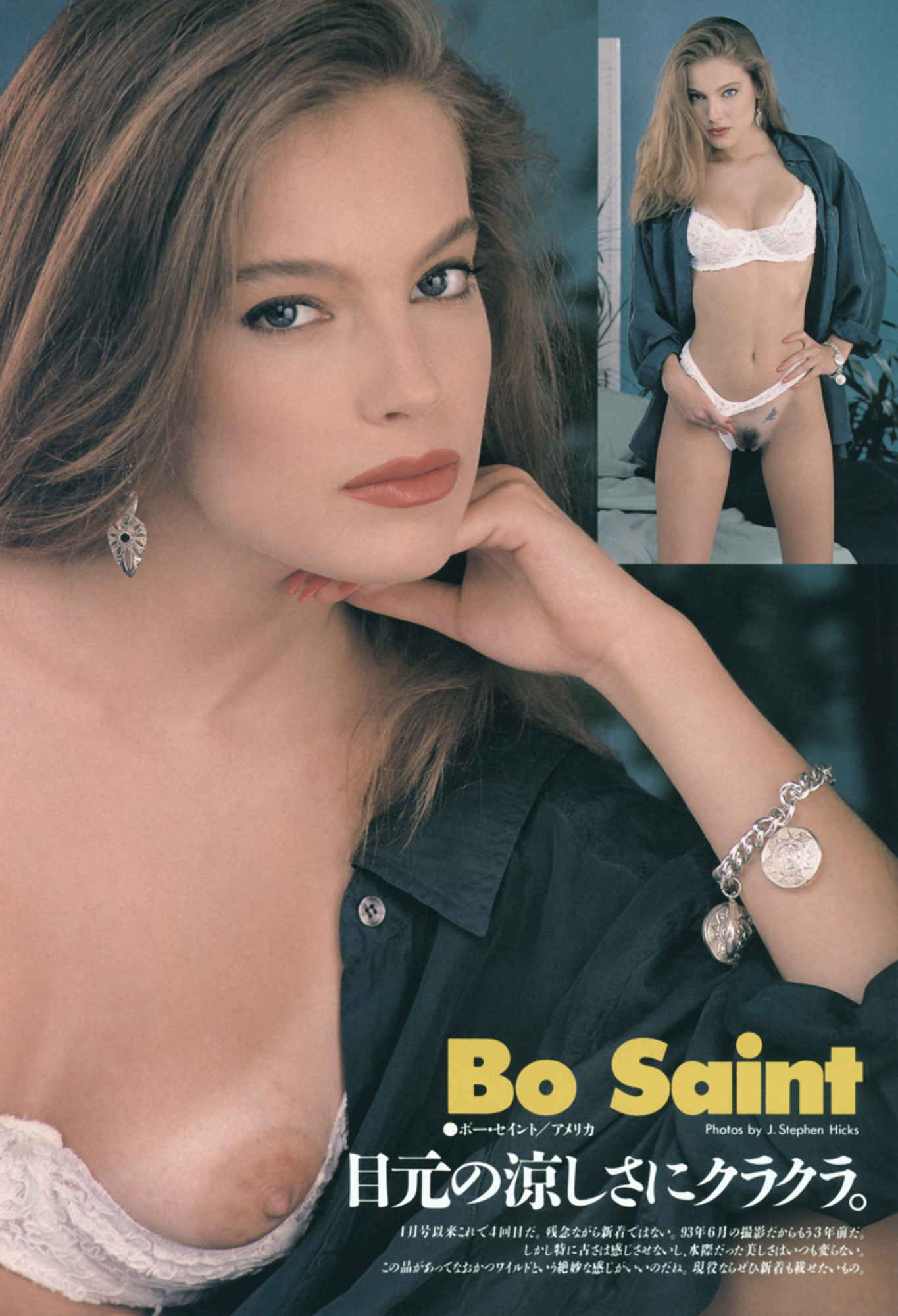
Susan O'Mally

●スーザン・オマリー／イギリス

Photos by Jack Harrison (Global Pictures ©)

次回のインタビュー、キミに決まりだね！

名前が違っているからといって別人と見間違えるわけはない（いつもとは限りませんが）。彼女は3月号でヤスミン・リーと紹介したモデル。再度プロフィールを確認しておくと、1975年8月22日北イングランド生まれ（20歳）。B86（Bカップ）W58H91cm。身長163cm。ヘアスタイルを変えた今回の写真の方が前回よりも若くチャーミングに見えるかな。



Bo Saint

●ボー・セイント／アメリカ

Photos by J. Stephen Hicks

目元の涼しさにクラクラ。

1月号以来これで4回目だ。残念ながら新着ではない。93年6月の撮影だからもう3年前だ。
しかし特に古さは感じさせないし、水際だった美しさはいつも変らない。
この品があってなおかつワイルドという絶妙な感じがいいのだね。現役ならぜひ新着も載せたいもの。

Dagmar Bockova

●ダグマール・ボチコーバ／チェコ
Photos by Peter Flodqvist

28年目のプラハの春。

ハンガリーの首都ブダペストもそうだが、チェコの首都プラハもまたモデル志願の女の子を探すのに苦労しないという。チェコ出身のAV監督フランク・スリングはスウェーデンの「プライベート」で仕事をしているが、彼によるとチェコ娘はセックスに関してオープンな子が多いとかで、いずれハンガリー同様ポルノブームが始まるのではないかという。ダグマールは25歳、プラハの中心部にブティックを構えている。B91W61H89cm。身長175cm。撮影は昨年の10月。

NEW COMER

up!

June 1996

★BONUS PIN-UP

Joanne Guest

up! U
June 1996
★BONUS PIN-UP

Joanne Guest

Joanne Guest

●ジョアンヌ・ゲスト／イギリス

Photos by Steve Colby

ニュートンをちょっと意識して…。

やっぱり3ヵ月に1度は見ないと…という人もいれば毎号必ず載せてほしいという人まで、依然ジョアンヌの人気は根強い。新着が入れば当面その都度紹介してゆくつもりだが、今回のは昨年11月のショット。まぁ新着の部類に入れてもいいだろう。

in celebration of sexy debutantes

up! you

Get THE Best Asset!

＊Model／Joanne Guest　＊Photo／Picture Bank (Keyphotos ©)

up! U あっぷ！ゆー

第3巻第6号　1996年6月1日発行(毎月1回1日発行)　編集兼発行人・平林高士　発行所・株式会社ダイアプレス
〒162 東京都新宿区山吹町331 DIABOX ☎03(5261)5454(代表)

定価800円[本体777円]

雑誌 11575－6　Printed in Japan 印刷／凸版印刷株式会社　T1011575060800

Selena 今月のポルノスター！

●セリーナ／アメリカ

Photo by J.Stephen Hicks

実はセリーナを以前本誌で紹介したことがある。もう1年以上も前のこと（95年4月号）。その時の写真は95年1月ラスベガスで開かれたCESの時のものだったが、1年後の今年も同じくCESの会場に実らぬ姿を見せている（下に掲げた写真がそれ）。

ご覧のとおりセリーナは一種エキゾティックな顔立ちをしている。95年のCESの写真を見た時は、ヨーロッパの女優かとも思ってしまった。聞けばそのルーツは複雑で、ドイツ、イタリアなどヨーロッパの主要数ヵ国の血脈を受け継いでいるのだとか。ブロンドのグラマーで青い眼という典型的なアメリカン・タイプに彼女のようなタイプが混じると、どう見ても異彩を放つ。

もっともアメリカの一般市民のレベルからすればなんら目立つわけはないのだが、セリーナの飾らない姿はポルノ界の人工的でど派手なセックス・アピールむきだしタイプと対照的なのである。

94年11月のデビュー以来30本以上のビデオに出演しているが、その数自体は少ない方だろう。ボックス・カバーもごくごくわずか。ジョン・レスリーに可愛いがられ、彼の「ヴォイヤー（覗き）」シリーズ「ダーティ・トリックス（娼婦役）」シリーズには必ず彼女が出ている。

彼女のファック・シーンは、監督の腕前にもよりけりだが、概して生っぽく、かつ激しい乱れっぷり。生々しさを感じさせるのはきっと彼女のポルノ女優らしからぬ雰囲気のなせるわざだろう。難点はやはり写真写りの問題。金髪・ボインでない分損をしているのかもしれない。

DIRTY TRICKS＃1 (Evil Angel)は昨年11月にスタートしたジョン・レスリーの新シリーズ。

▲今年1月ラスベガスCESの会場。セリーナはジョン・レスリーの秘蔵っ子だ。

Photos by Momo

Selena

●セリーナ／アメリカ

Photos by J. Stephen Hicks

ヨーロッパの純良ブレンド。

セリーナみたいなタイプは間近で見て初めてその本当の魅力がわかるのかもしれない。パッと見た目の派手さ、華麗さというのはあまりいってない。着なりの美しさというのが、飾り気のないシンプルな魅力が漂う。実際に会ったことはないけれども、わがレポーターのそそもその点を十分認めている。ところが例の「イチ押し」女優のひとりと公言。21歳、ロサンゼルス生まれ。B87W66H96cm、身長176cm。ビデオには一昨年11月から。なんでもルーツは複雑らしく、ドイツ、イタリア、オランダ、チェコ、フランスとヨーロッパの主だったところの血がすべてミックスされている。今月は新作の現場レポートも併せて掲載してある。

●シーンを説明する監督のエリック。女子プロボウラー・チーム「アレイ・キャッツ」の面々。

●Eric Edwards' Alley Cats —— Featuring Stephanie Swift with Nici Sterling& Selena.

USハードコア撮影現場レポート

Photos&report by Momo

ステファニー・スウィフトという可愛い新人が「日本へのダンス・ツアーに行かないかという誘いがあり、それについては多くの人がモモと話せ、といわれたので」と電話があった。とにかく会って話をとなり、聞くとギャラも安いし、ちょっと胡散臭かったので、もう少し様子を見ようということになった。昼食の後の予定を聞くと、エリック・エドワーズ監督の現場へ行くというので、彼の現場は初めてだが、彼のことは知ってるので取材許可がとれるかどうか、ひとまず同行してみた。二つ返事のOK!OK。

我がアパートの立地条件に感謝する。そのロケ地さえも家から10分とかからない場所にあった。豪邸とはいえなかったがプール付きは当然。ベッド・ルームも4つほどあった。コール・タイム（集合時間）が午後の4時というのが、気になり（普通は朝の8時、9時）聞いてみると、そこで2シーンを撮った後、夜中の12時から営業を終えたボーリング場で3シーンの撮影があるのだと。なるほど。

ステファニーのボーイ・ガール・シーンをベッド・ルームで撮り終える頃、ニッキー・スターリングが現れた。そして「モモ、今日街で見かけたよ、女の子の車に乗ってるのを」と意味あり気に笑ったので、その女の子が彼女でと紹介し、事情を説明するとちょっとガッカリ?した様子で「そうなの」とまた笑った。

彼女らとある黒人の新人女優とのリビングで3人レズが次のシーンであった。女優たちがそれぞれ玩具を選ぶ作業というのは、いつ見ても不思議な気分にさせられる。実に楽しそうなのだ。これじゃ太過ぎるかしら」「あらこれの方がヨさそうよ」とか、本当に幼稚園児たちが玩具選びをしてるような明るいムードなのだ。

その幼稚園児たちは「アクション」の声で一気にその面影を消し去り、淫乱な女へと変身する。どちらも彼女たち（もしくは女）の本性であると思うと、やはり女は魔物という言葉がファインダーの中を横切る。

▲新人ステファニー・スウィフトとスティーブ・ドレイクの絡み。そしてニッキー・スターリングの3Pレズ。

イチ押し女優セリーナの本番シーンが目の前で！

▲セリーナとスティーブがビリヤード台で。男優の両脇にカメラと照明が密着して撮影。こんな状況でも演(艶)技ができるのがプロ。

Selena

その賑やかなシーンを終えるとスタッフは機械をトラックに積み始め、ニッキーや黒人女優らと別れて、ボーリング場へ移った。スタッフが忙しそうにセッティングをしてる間、トニー・テデシやトム・バイロンらが到着した。やることがない彼らはボーリングを楽しんだ。スティーブ・ドレイクも到着し、さらにモモの個人的なイチオシ、セリーナが現れたのは嬉しかった。ちょっと疲れてる様子ではあったが、やはり超セクシー。リサ・ハーバーの3Pの後、彼女とスティーブのビリヤード台のそばでのシーンとなった。4時きっかりに現場入りしたステファニーはその間、少しの台詞をはさんでずっと出番待ち。誰よりも疲れている様子。セリーナが出番になる前、彼女とビリヤードをしたが、彼女には勝った。以前ボブズ・クラッシー・レイディでジュリー・アシュトンとやった時には1勝2敗だったが、セリーナには完勝だった。セリーナのファックはあまり激しいものではなく、それは相手のスティーブのせいかもしれなかったが、そのせいで動きが少なく写真は撮りやすかった。撮影の後、彼女は「そろそろ引退の時期ね」と語ったので、マジ?と聞き返すと、「今入ってるスケジュールを終えたら」と残念な答えをくれた。しかし、この原稿の時点で、某日本メーカーのブッキングのために、念のために電話を入れてみると、「いったわ、確かに。でも、女優がどんな生き物か知ってるでしょ。来週もハスラーの撮影が3日間入ってるし、他にもいくつか予定があるわ。もう少しやってみようと思ってるの」と苦笑いが返ってきた。女心と秋の空に感謝。

Nikki Tyler

●ニッキー・タイラー／アメリカ　Photos by Suze Randall (G.I.P. Tokyo ©)

ニッキーふたたび。

こういうムチムチ系金髪ボインは本誌ではあまりウケないかと思いきや、案外アピールしていそうだ。そこでBACHELORからこちらに完全にお引越しというわけ。4月号の写真よりも今回は新しく昨年5月の撮影。本数こそ少ないがいまやVIVIDの看板女優のひとり。ちょときつめのマスクだが、その妖しい視線に痺れという人もきっといるはず。

Kristina Boros & Yasmine Gilon

●クリスティナ・ボロス／ハンガリー
& ヤスミン・ギロン／ベルギー

Photos by Jack Harrison (Global Pictures ©)

快汗ロッカールーム。

ブルネットの方がハンガリーのモデル、クリスティナ。ブロンドがベルギーのモデル、ヤスミン。
クリスティナは27ページに掲載したハンガリー・レポートにも出ている。20歳、B81W56H86cm。
ブダペストではエアロビクスのインストラクターをしている。モデル歴1年。
ヤスミンも20歳、B86W61H91cm。本業はダンサーだそうだ。

NEW COMER

DONNAY

PRO CYNETIC

up!U

Don't Miss!

July issue On sale June 3

7月号は6月3日(月)発売です。

coming ATTRACTION

Shelly

●シェリー/イギリス
Photo by Ralph Medland

歳?ご想像に任せるわ。

この4月に初めて脱いだシェリー。それまではティーンズ・ファッションモデルとして活動していた。
今年の7月まではアメリカでもイギリスでも彼女のヌードはお目にかかれない。
欧米より2ヵ月先行で本誌デビュー。次号でタップリと紹介する。